



今回は1年生課題研究のまとめです。

◇ 平成30年度 SGH活動を通して学んだこと

1年生は「インバウンドを岐阜へ」というテーマで1年間課題研究に取り組んできました。答えのない問いに対してグループで活動していく中でさまざまな困難や苦労に直面しましたが、それを乗り越え多くのことを学ぶことができました。以下は生徒の振り返りとルーブリックによる評価のまとめです。

●活動をする中で、何が一番大変でしたか？

- ・県や市、地域が観光に関わる取り組みをしている中で、新しい方法を見出すことが大変だった。
- ・インターネット上にあるデータが限られており、自分たちが必要な情報をうまく集められなかったこと。
- ・どんな方法で広めるかを考えること。
- ・自分たちが考えた案が、どうしてインバウンドを呼び込むことができるのか説明すること。
- ・限られた時間の中で提案内容の練り直しをしたこと。
- ・提案に実現性が見られるよう工夫し、その工夫に論理的な根拠を見つけ出すこと。



- ・外国人観光客に来てもらうにはどうしたらいいのか、自分たちがしたいのは何か、突き詰めて考えることが大変だった。
- ・レポートやプレゼンテーション資料の作成。レポートは相手に伝わりやすいように添削し、パワーポイントは見ている飽きないようにイラストを多くするなどして工夫した。
- ・根拠を持ってプレゼンテーションをすること。
- ・班員との気持ちのずれをどう埋めていくか。

●その困難をどのように乗り越えましたか？

- ・仲間と協力し、何時間も考えた。
- ・グループの仲間と協力し、別の角度から物事を捉えた。
- ・仲間の存在。グループに問いかけたら、みんな答えてくれて、いい発表ができた。
- ・周りの人が頑張っている姿を見て、自分の気持ちを高めた。
- ・みんなに指示をして、仕事を分散した。
- ・仲間と話し合っ、意見を共有して案を考えた。
- ・グループ内で逐一報告し、情報を共有した。



- ・外国人観光客の立場に立って考えた。
- ・フィールドワークに行き、アドバイスをもらって乗り越えた。
- ・インターネットなどを活用したり、フィールドワークに行ったりして、こつこつと調べた。
- ・成功体験のある方に話を聞いたりデータを取ったりして、自分で何度も筋道を立てよく考えた。

●SGH 活動はあなたにとってどのような意味がありましたか？

- ・普段あまり考えないような自分の県・市の良さを考え、見ることができるいい機会でした。また、外国人観光客をどう呼び込むか考える過程で、自分たちの市の良さに気付くことができたのもよかったです。
- ・岐阜県の現状を調べることで、自分の住んでいる地域の関心を高めることができた。
- ・普段はあまり考えることのない地元の観光について考えられた。新しい物事の見方が増えた。
- ・発表を作る過程で自分たちの地域について知識をつけていくことができた。報告書、プレゼン、ポスター作りなどを通して頭を使うことができた。
- ・考えたことがなかったテーマでも自分なりに考え、調べ、目標を達成するために行動する力がついた。
- ・課題に対して班のメンバーで考えて案を出し合い、協力してプレゼンを作ることで、思考力や協調性が自然に身についたと思います。このような社会に出た時に必要な力は学校ではなかなか身に付けられないと思うので、意味がある活動でした。
- ・グループの中で全員のモチベーションをあげて協力したり、プレゼンや提案の仕方について講話を聴くなどする中で、新しい発見があったり、知識が増えた。
- ・仲間の意見を聞き、自分の考えを伝えることや、論理的に考え素早く実行に移す力が身についた。
- ・何か行動を起こしたり、活動を始めたりするときは達成までの道筋を考えて計画を立てて行うことが大切だと感じた。
- ・視野を広げることができた。SGH の時間を通して今求められている人材が分かった気がする。他の人の考えを取り入れる大切さを再確認することができた。
- ・自分の進路の参考になることが知れた。また、自分が考えてなかった、新しい考えを知れて驚いた。
- ・コミュニケーション力を高めることができた。
- ・自分が知らなかったことを知ることができ、新しい世界を見つけることができた。
- ・役割分担の難しさが分かった。



●あなたにとっての課題はなんですか？

- ・積極的に動くこと。
- ・積極的に人に質問したり、話しかけたりすること。
- ・プレゼンをするときに、面白さを入れたり興味を持ってもらえたりするように工夫すること。
- ・端的にわかりやすく説明する力を付けること。

- ・学習に前向きに取り組むこと。
- ・情報を仲間とシェアしていくこと。
- ・何がダメだったか課題を見つけて次に進んでいくこと。
- ・「モノ」がないからできないのではなく、ある「モノ」でできるようにすること。
- ・頭で考えていることがあってある程度アイデアが浮かんでいるのに、言えないこと。
- ・最後までより良いものにしようと努力し続けること。



●ループリックによる評価

1年間の活動の評価として、生徒一人ひとりが課題の設定、提案内容、ポスターの見やすさ、データの活用、発表時の声の5項目に対して、4段階評価を行った。

結果を見ると、課題の設定や提案内容については高い満足度があることがわかる。これは1年間、課題に向けて真摯に取り組んできた結果だと考えられる。一方で、データの活用に関して満足・やや満足と答えた生徒の割合が低くなっていることから、提案内容の根拠ある裏付けが十分にできていないと考えられる。提案内容に説得力を持たせるため、アンケートを用いたり数字を活用したりと論理的に考える思考力などを育む必要がある。また、発表に関しては特に満足度が低くなっている。自分たちが考えた提案を適切に伝えるプレゼン方法を今後磨いていく必要がある。

